

## 総会・研修会報告

### 第30回・日本白鳥の会総会

第30回日本白鳥の会総会は、2001年12月2日(日)に滋賀県湖北町尾上温泉の旅館紅船で開催された。出席者は105人であった。

#### 平成12(2000)年度事業報告（一部事務局日誌を含む）

平成12年4月1日 白鳥ニュースNo.18発行「青森県下田町の第28回総会及び第24回研修会など」

11月20日 第29回日本白鳥の会総会及び第25回日本白鳥の会研修会「福島県福島市阿武隈川」開催案内送付

平成13年1月9日 定時定点調査表配布（調査協力者へ）

1月16日 会誌「日本の白鳥」第23・24合併号発行

1月20日 第29回日本白鳥の会総会及び第25回日本白鳥の会研修会「福島県福島市阿武隈川」開催  
～21日

研修会では、西成辰雄さんの「白鳥伝説」と奥州三四郎さんの「秋田皆瀬川での飛来状況と白鳥クラブの活動」と角田分さんの「写真による白鳥の生態理解への試み」と荒尾稔さんの「昭和34-35年度白鳥の渡りの整理と現状分析、そしてこれからの保護策」と中井恒峯さんの「福島県内の白鳥飛来について」と八木博さんの「阿武隈川の白鳥について」発表が行われました。総会では、平成11年度決算及び事業報告について、原案のとおり承認された。平成12年度予算と事業計画についても原案とおり承認された。

次期研修会について、滋賀県琵琶湖湖北町で開催されることとなり、開催地の肥田理事から説明があった。また、平成14年度研修会について、北海道浜頓別町クッチャロ湖での開催予定。また、役員改選と会則の変更がされた。

#### 平成12(2000)年度決算報告

収入		(単位：円)	
項目	予算額	決算額	備考
会費	416,000	80,000	会費4,000x20名
会費以外	30,000	5,000	寄付
前年度繰越	771,159	771,159	
合計	1,217,159	856,159	

## 支出

項目	予算額	決算額	備考
印刷・事務費	400,000	113,400	会誌印刷
通信費	116,600	81,380	会誌送付・事務連絡
消耗品費	10,000	3,326	封筒など
負担金	200,000	200,000	
会議費	84,000	0	会議室使用料
予備費	406,559	1,470	振込手数料
	1,217,159	339,576	

負担金は国際湿地保全連合日本委員会

収入 支出

856,159円－399,576円＝456,583円

456,583円は平成13年度に繰越

## 平成12(2000)年度会計監査報告

会計監査の結果、正に相違ないことを認めます。

監事 山崎 安紀 ㊟

星子 廉彰 ㊟

## 第26回・日本白鳥の会研修会

研修会は12月1日、14:30～18:00、琵琶湖水鳥・湿地センターのレクチャールームで開かれた。参加人数は93人(県外29、県内64)でした。

開会挨拶のあと、藤巻会長と湖北町・丸岡町長の挨拶、来賓として、滋賀県自然保護課・河本課長、草津市・古川市長、新旭町・海東町長(代理助役)の祝辞をいただいた。

続いて次の研究発表が行なわれた：

澁谷辰生 厚岸湖、別寒辺牛湿原におけるオオハクチョウの大量死。－餌付け問題による人間の生物観と環境行政－

角田 分 最上川河口白鳥飛来日本一のわけ

神谷 要 レナデルタにおけるコハクチョウの首輪標識

松村 勝 環境ボランティア・草津湖岸コハクチョウを愛する会の活動

堀野善博 琵琶湖西岸のコハクチョウ

石井光弘・仁科久雄 滋賀県湖北町に飛来するコハクチョウ

研修会の後には、湖畔の紅鮎旅館で懇親会が行なわれた。参加者人数は72人と地元(劇団モモ)18人、来賓4人であった。懇親会では、地元野鳥の会や劇団モモによる合唱(楽譜参照)・踊り、詩の朗読など、さまざまのアトラクションがあった。

翌2日には、10:00～12:00にコハクチョウの観察会を実施された。湿地センター

で開会挨拶、全体説明の後、車4台に分乗し、観察に出発した。水田から湖岸を回り、琵琶湖で採食をするコハクチョウをゆっくり観察する事が出来た。2日間とも風もなく、暖かな晴天であったため、コハクチョウもヒシクイも沖合遠くに移動していた。観察終了後、野鳥センター隣の水鳥ステーション(道の駅)に戻り、地元婦人グループ「湖北白鳥の会」の方々の協力により、おにぎり、豚汁、甘酒の食事をいただき、解散した。参加人員は106人(県外40、県内66)とスタッフ20人であった。

なお、今回の総会・研修会には、草津湖岸ハクチョウを愛する会、新旭町水鳥観察センター、琵琶湖ラムサール条約連絡協議会、滋賀自然観察指導者連絡会湖北支部、湖北野鳥の会の協賛をいただいた。



## 琵琶湖研修会参加報告

神谷 要

2001年12月2・3日にかけて、琵琶湖の湖北町で日本白鳥の会の研修会が行われました。琵琶湖のラムサールセンターの肥田嘉昭様や清水幸男様、西村 武司様他、地元ボランティアの皆様のおかげでたいへんいい研修会にさせていただきました。ここに報告いたします。

一日目の事例の発表では、北海道厚岸の渋谷辰夫氏、山形の最上川角田 分氏と米子水鳥公園の神谷要が研修会前半に発表を行いました。

研修会後半では、地元琵琶湖から、湖南、湖西、湖北の三飛来地からの報告がありました。琵琶湖周辺には、まだ優れた日本の水辺生態系が残っており、そのため

でしょうか、琵琶湖周辺の各団体は湖全体を視野に入れた考え方の人が多いように感じました。水鳥の保護のために、給餌より環境、特にヨシ原や、水草の生える浅瀬の重要性を強調される方が多かったように思います。

翌日は琵琶湖周辺のエクスージョンが行われました。琵琶湖は、日本では珍しく、白鳥類に対する給餌をほとんど行っていない地域で、湖面で水草を捕食する白鳥本来の生態を観察することができました。また、オオヒシクイ200羽も観察でき、楽しいバードウォッチングでした。また、内湖の回復計画や、残された内湖の様子、残された湖岸のヨシ原の管理条例など先進的な事例を見学できたことは、非常にいい勉強になりました。ただ、琵琶湖には、都市に近いため、釣り客のボートや、ブラックバスなどいろいろの問題はあるようです。琵琶湖周辺各団体の方々には、このような問題にも取り組みつつ、ますますのご発展を祈ります。最後に、湖北の山々も紅葉で美しくかったことを付け加えさせていただきます。

本研修会には、片野鴨池の大畑孝二さん、琵琶湖博の亀田佳代子さんと中国からの研修生の黄非さんもやってこられていました。また、番外ですが、野外講座で偶然湖北町にこられていた琵琶湖水鳥研究会の須川恒先生にもお会いできて、とても充実した一日となりました。

## 研修会参加者

来賓：河本晃利(滋賀県琵琶湖環境部自然保護課長)、古川研二(琵琶湖ラムサール条約連絡協議会会長、草津市長)、海東英和(琵琶湖ラムサール条約連絡協議会副会長、新旭町長)

参加者：白鳥の会会員：植村明也、梅田修次、大津栄二、大畑孝二、角田分、川原博美、神谷要、菊池昶史、小西敢、斉藤正宏、佐久間拓城、渋谷辰生、千葉正良、遠山敏子、萩原政彦、八田知昭、花積三千人、肥田嘉昭、藤巻裕蔵、平野隆、古川博、星子廉彰、松木勝彦、三浦勝雄、三浦研一、三宅博、村本正治、村本禎子、吉岡弘道

地元関係者等：荒井弘次、石井光弘、伊藤清文、伊藤とよ子、井上徳浩、大橋邦男、岡村秀俊、恩地美和、加藤忠夫、加藤靖司、片岡優子、角川義人、角川正起、亀田佳代子、北川由美子、木原茂喜、木村修、木村忠義、杓水司、口分田政博、小寺等、近藤敏子、佐野源治、城弟真治、清水三喜男、清水幸男、下野誠之、関谷隆義、田中茂、田見健一、辻本和美、永谷陽子、永福尚、中川三治、七里登、七里理恵、西川豊、西川月子、仁科久雄、西村武司、西村利夫、沼田茂和、隼瀬大典、肥田文子、福永善次、福山久雄、藤田敏雄、布施善明、堀野善博、前川康一、松村勝、松山映江、丸岡一至、宮田正春、宮本真浩、村上宣雄、村田良文、森千鶴、森茂樹、森川誠一、森田初子、藪田広信、山内一美、山岡徳寿、山岡久芳、山岡和子、山方曙一、山方美智子、山崎歩、山本均、横尾明美、横川栄仁、吉川美佐子、吉川一茂、脇坂傳兵衛、黄菲